

久留米の自然



2006年7月1日

第93号

サンコタケ アカカゴタケ科

撮影場所

高良山

撮影時期

2006年5月5日

撮影者

橋田 沙弓

サンコタケ

角 正博

キノコの世界には、腹菌類（腹菌亜綱）と呼ばれる一群があります。子実体（いわゆるキノコと呼ばれている部分）は、幼菌の時は卵形で殻皮に覆われ一見、何かの卵のように見えます。やがて成熟すると、種に応じて殻皮が剥離したり、裂開したり、柄が伸長し、さらに腕やレースのマントが開張したりします。まさに千姿万態、腹菌類の世界は目を見張るような珍品希種のひしめく世界です。その珍奇な形態、鮮やかな色彩、強烈な悪臭や甘い果実のような香りを発する生態は昔から、多くの人々の興味と関心を引いてきました。しかし、腹菌類は、分類学的には形態的に似た雑多なものを集めた、極めて人為的なグループです。近年、海外でイグチ、ベニタケの仲間との関連を示唆する種が見つかり、再検討が進められています。

さて、サンコタケ（アカカゴタケ科）も腹菌類の一つです。子実体は、幼菌の時は白色の卵

形です。子実体基部には、白色の根状菌糸束があります。成熟すると、殻皮が裂開して、托（柄）部と托枝（腕）が伸長します。托（柄）部は、下部の卵に近くなるほど白色で、托枝（腕）より短く中空です。托（柄）部の先は分かれて托枝（腕）と呼ばれます。托枝（腕）は通常3本に分かれ、生時は美しい橙黄色を帯び、頂部で接合します。胞子を形成する基本体（グレバ）は、褐色～黒褐色で托枝（腕）の内側に付着し、粘液化すると強い腐臭を放ちます。この臭いで昆虫（ハエ等）を誘い、寄ってきた昆虫の体に粘液化した胞子を付着させ、運んでもらうという虫媒菌です。このようにスッポンタケ目のキノコはどれも、強い異臭を放って昆虫を誘うので、歩いていても臭いでわかるほどです。和名の「サンコ」とは、仏教の法具である「三鈷杵（さんこしよ）」（通称：三鈷）の形に、3本の托枝（腕）が似ているところに由来します。

自然と史跡探訪の一助に**古賀 幸雄**

(1)九州平定した秀吉は1587年(天正15年)6月、畿内同然の地として筑後に5大名配置。

・小早川隆景(筑前名島城主。もと伊予国14郡領主、毛利元就の3男) - 筑前1国と肥前2郡、筑後2郡(生葉・竹野)を支配(-1594)

・小早川秀包(久留米城主、兄隆景の猶子、元就9男、もと伊予国宇和郡大津城主) - 領地不詳、御井・御原・山本3郡か。妻は大友宗麟の娘マセンシャ、夫秀包も黒田如水の勧めで洗礼うけてシメオンという。文禄3年(1594)兄隆景が羽柴秀次を後嗣とすると毛利姓に復活。同4年の太閤検地で山本全郡と御井郡内5村、上妻郡内38村、三潴郡内10村、約3万石を受けたらしい(-1601)

・立花宗茂(柳河城主、もと筑前立花山城主、戸次道雪の養子、実父は島津勢との岩屋城合戦で敗死した高橋紹雲) - 三潴・下妻・山門・三池4郡を領有(-1601)秀吉に忠節をつくす。

・高橋直次(山門郡江浦城主、もと宝満山城主、立花宗茂の弟、兄の所領三池郡を分け与)

・筑紫広門(上妻郡山下城主、もと肥前勝尾城主(-1601)反島津方として動く。

小早川兄弟と立花宗茂は秀吉から羽柴姓を受けて信任され、関ヶ原役では筑後5侯はみな西軍につき改易。立花氏のみが後年に大名に復活、筑後を有馬氏と分有した。

(2)筑後在来の旧土豪(国人衆)の処理

およそ鎌倉期以来、筑後の有力な土豪として、南北朝・戦国時代を生き抜いた彼らは、西下した太閤軍への対応の仕方では処理されたが、太閤の原則として「在地者の有力層排除」、旧豪族の住民との地縁の断絶がなされた。主要なものを取り上げて記して見る。

・問註所統景(浮羽新川の長岩城主) - 大友氏への一貫した忠節もあり、生葉郡領主となった小早川氏の配慮で200町が安堵されたが、文禄4年検地で遠隔地をあてがわれ、慶長7(1603)

年開城した。

・星野実信(本家、吉井町の福益城主) - 小早川氏に与力として200町があてがわれた(後立花・細川氏へ譲った)星野長虎丸(田主丸麦生城主) - 新領主小早川氏に敵対的で領地没収、鍋島氏の媒介で佐賀へひきとられて仕官。源兵衛と改名。黒木匡実(八女郡黒木猫尾城主) - 小早川氏に属し、田主丸(別説は鳥飼村)に住して200町をあてがわれたが、小早川氏の中国転封もあり、立花氏に仕えた。草野家清(山本町発心城主) - 天正14年(1586)末、小早川隆景・黒田孝高ら4名連署の山本郡・三井郡・竹野3郡内750町宛行の書状がすでに出され、これで安堵されたと見られるが、同16年、南関で故あって秀吉方により誘殺された。嗣子幡千代丸は佐賀藩へ仕官。高良山座主(45世)麟圭 - 150町の寄進を受けたが、天正19年、城主秀包はこれを誘殺、その末子秀虎丸を城中で保護した。次代尊能である。蒲池鎮運(山下城主) - 三池郡の内200町を宛行い、立花氏の与力となる。のち子孫は黒田家に移った。三池鎮実(今山城主) - 三池郡内150町を宛行、立花氏の与力となる。安武氏(海津城主) - 滅亡。子孫は立花家に仕官。西牟田家周(城島城主) - 領地没収、子孫は佐賀に移る。

- 以上記す諸家の内、問註所統景・蒲池鎮運・三池上総介(鎮実)らは朝鮮の役で戦死している)

(3)小早川氏与力として故郷から筑後に移された土豪

・原田信種(糸島郡高祖城主) 400町、翌年肥後へ。長野鎮辰(豊前長野城主) 200町、翌年肥後へ。麻生家氏(遠賀郡花尾城主) 200町。宗像方鶴(宗像郡葛か岳城主氏真養子) 200町、不明

- 以上(3)項は(小早川文書)より -

久留米の蝶33

ゴイシジミ

国分 謙一

高良山の自然歩道や、私達の近所の林と畑の境等には背丈が低いササや竹があり、そのササや竹の葉に触れんばかりに、小さな蝶が白と黒、交互にチラチラと薄暗い樹林の狭い空間に飛んでいることがあります。

羽の表面は一面の黒色で見栄えがしませんが、碁石シジミの通り、裏面は白地に小さな黒点を散らした独特の色彩・斑紋なので、日本の蝶の中で間違えることはありません。

雄、雌の区別は難しく、雄は全体的に前羽が尖り角ばった感じで、雌は丸まった形をしています。

浜田かHAMADAか

ゴイシジミの学名(世界共通名)は1875年(明治8年)に横浜産の標本を基にHamadaと名付けられています。このHamadaとは島根県の浜田市の名称から名付けられたものと思われてきましたが、8年ほど前にアフリカのモロッコ周辺にある、岩だらけの砂漠の地形を示すアラビア語ではないかとの説が出されました。岩石砂漠といい、粒子の細かい砂が風等により流されて大きいのが残った場所で、岩が鉱石で黒くなっているのでは?と考察されています。この説は現地を見て確認したとはまだ聞いておりませんから、どなたかアフリカ旅行のついででも確認されたら如何でしょうか。なお、名付けた本人にはもう聞けないので正解は知りませんが、私は浜田市の説が正しいのではと思っています。

唯一の肉食

小学校で昆虫と植物の関係や、モンシロチョウの一生等で昆虫を習うので、蝶の幼虫は植物を食べるものと思っておられるはずですが、全ての蝶の幼虫が植物を食べているわけではありません。

日本の蝶の中でもいくつかの蝶は植物と生物

を食べているものが生息していますが、ゴイシジミだけは完全な肉食です。

母蝶はチラチラと飛びながらアブラムシの集団の中に素早く卵を産み、幼虫はササや竹に寄生するアブラムシを食べて成長します、なお、幼虫の色彩はアブラムシと同じ白色であり、アブラムシの集団をよく見ないと、幼虫がいるのを見過ごしてしまいます。

移動はどうやって行う?

町の中の孤立した屋敷林や社寺林のササや竹にアブラムシが発生すると、不思議なことにゴイシジミがいつの間にか発生します。

生息地の蝶を見ていると、飛び方も緩やかで、その場所からほとんど離れることはなく、姿を見ていると移動性が全くないのではと思えます。何も無い場所で普段見ているチラチラとした飛び方でなく、一直線に素早く飛んで行っていたそうですが、私はこのような場面を見たこともありませんし、移動の詳しい報告もないようです。人為的にアブラムシを取り除いて成虫の行動を観察したらできるかもしれません。

昆虫の中で調査が進んでいるといわれる蝶でさえ、まだまだ解らないことが数多くあります、この調査は時間と根気が必要ですが挑戦されたいかがでしょうか。

久留米市での観察

久留米市では5月上旬から10月まで見られますが、少なくなったようで一度に多数見ることがありません、やや薄暗い場所の小さなササや竹の葉や茎が、白く粉をふいたようになっているのがアブラムシの発生箇所、その付近をチラチラと飛んでいるので発見できますし、逆に蝶を見かけた傍らには必ず白いアブラムシを見ることができます。



米田副会長、緑の功労者として表彰される**福田 万里子**

4月29日の"みどりの日"に、緑豊かな住み良い街づくりに多大な貢献があった"みどりの貢献者"として副会長の米田豊氏が表彰を受けられました。百年公園の東で筑後川添いの"くるめウス"が会場で、表彰者が壇上に上がられると、活動内容の説明と共に活動の様子がそれぞれ数カットづつスクリーンで紹介されて、とても良い雰囲気でした。

米田氏の表彰理由(活動内容)は「小中学校の総合・体験学習、高齢者・六ツ門大学などの講師を歴任し、自然保護思想の啓蒙、自然観察会・探鳥会などの指導をして来た。緑の祭典を始めとして、長年様々な公的な行事で自然観察会や探鳥会などの指導をして来た。行政機関発行の自然教育読本、自然観察・自然歩道ガイドブック作成、市誌編纂などに協力して来た。行政機関の環境基本調査に参加したり、自然保護や環境美化などで様々な提言をして来た。昭和48年の制度発足以来、県の環境保全指導員としてゴミの不法投棄や自然破壊の監視をし、通報したり対策を要望して来た。年2回の高良山清掃ハイキングに30年以上に渡り参加・指導して来た等々。」というもので、久留米の自然を守る為の長年にわたる御努力と業績に改めて頭の下がる思いです。今回の受賞を心よりお祝い申し上げます。



表彰される米田副会長(左)

生き物に魅せられて**コジケイの巻 松永 紀代子**

空梅雨の2005年6月の中旬、簡歩跡地の丘を歩いた。真っ白なチガヤの穂の波が美しくその上をウスバキトンボが群れていた。

丘を背に坂道を下りかけると横のヤブからコッゴッコと声がかしてきた。ん? ザッザッ、ガサ、バサバサ。随分派手な動きだ。そしてピヨピヨピヨの声。ヒナだ! ヤブの隙間を伺うと、褐色の小さなヒヨコの頭が見えた。親の言いつけなのか、じっとしている。

コッゴツの声が行ったり来たりで、この声が近づくとピヨピヨもピヨヨと忙しくなる。ヒヨコは自分で餌をとると思っていたが、まるで親に餌をねだっているような騒ぎ具合だ。

ガサガサ。しまった。音を立てたのは私。すぐにコッゴツの声がザザザと大急ぎで戻ってきた。ああ反対側からも。親が2匹で世話をしているのかな。ちらりとコジケイらしい姿がみえた。そして、コッゴッコ、ガサガサ、ピヨピヨと音が遠のいていった。

ひととき 動物笑話 その38**アフリカゾウのリーダー交代**

ゾウは賢い動物で記憶力がよく長寿であり、経験豊かな雌が統率する母系集団で行動する。そのリーダーが「最近物忘れがひどくなって移動する道が思い出せなくなり、おまけに花粉症にかかって涙は出るわ、鼻水は出るわで水の匂いも嗅ぎ出せなくなった。そこでお前さんにバトンタッチするよ」と言って、別の年輩ゾウの鼻に自分の鼻を絡ませた。「皆さん、ねぎらいの拍手を!」と声がかかったが、立ち上がって前脚で拍手出来るわけではなく、考えた末、全員で円陣を組んで鼻先タッチし、「ゾウも御苦労さんでした」と言って、大きな耳でパタパタと音を立たた。

アフリカゾウは気性が荒く、人には慣れないと思っていたら、TVで南アフリカのレンジャーが密猟取締りにゾウに乗っていたのには驚いた。親が象牙の密猟で殺された孤児を育てて訓練したとの事。(Y.Y)

例 会 報 告

第329回例会

久留米の地域学(久留米学)のために
 ~久留米っ子高良川小検定とワクワク高良
 川歩き~ 角 正博

2月11日(日)は、時折小雨がパラつき、天候があまり芳しくなかったこと、さらに新聞社の勤めで先着10名の限定となったことで、参加を敬遠された方が多かったようです。少人数のフィールドワークとなってしまいました。しかし、その分だけ上流域から中流域まで多くの場所を巡ることができ、かえって見どころも細切れになることなく、充実した内容となりました。

主なテーマは、高良川流域を横切る断層線から見た「サルワタシ」等の流域の景観の形成、「芳見谷」、「牟田」、「蛭谷(びつだに)」と連続する地名から推測する流域の景観復元、「風呂谷(フロントニ)」や「ワクド岩」、「鳥の水(トンノミズ)」等の通称地名に見る流域の民俗、川原の石から探る久留米3億年の自然史等です。

中でもフィールドワークらしさが出たのは、杉谷を並行して流れる「本谷」と「風呂谷」の水温触り比べと「瀬戸ノ口橋」・「隈山橋」下の川原の石調べです。水温触り比べでは「風呂谷」の水は「本谷」の水より温(ぬく)いかどうかで意見が分かれました。また石調べでは、なんと橋田先生は専門の植物以外に石好きであることも判明しました。大きく重たい塩基性片岩等を、嬉々としていっぱい拾って持っていかれました(次の観察会のネタが少々心配ですが)。石にはやはり、人を惹きつける自然史のロマンが備わっているようです。

今回は寒い時期の実施となりましたが、高良川のフィールドワークとしては、本来は川の中に入ることも重要ですから、実施時期は、気候の良い初夏か初秋が適当だったかもしれません。



地図を広げる講師(左)と参加者

第330回例会

リニューアルした「春の野草を愉しむ会」

今村 由子

35周年を迎えた今年は、初めて耳納山麓を離れ、筑後川河畔に建つ「くるめウス」で開催しました。当日参加者50名。これまでの常連さんに加えて、筑後川連携クラブのボランティアの方々、高良川観察に参加の子供たちなどのニューフェイスが目立ちました。料理の方も、だんご汁・天ぷらの定番に、カルパッチョ・生春巻き・チヂミ・コロッケといった今風の献立を取り入れて12種類を準備しました。初参加のNさんから「野草でこんなバラエティに富んだ味が楽しめるとは思わなかった。美味しい。カッポ酒は最高」と嬉しい感想を頂戴しました。

なにごととも年を重ねてくると、節目に諸々見直し、新たなチャレンジをすることが、活動の活性化、魅力を増すことに繋がるようです。来年もまた、ご期待ください!!

事前採集は米田豊氏と一方香月宅前に集めた市民の方数人とともにふれあい農園周辺で行った。



出来上がった野草料理

第330 回例会

「野草を食べに行った。」

大城小学校3年 岩瀬 美月

この日は家族で野草を食べに行きました。いろんな野草をつかった料理がずらりとならんで色とりどりでみたくは、おいしそうでした。食べてみるとすしにがくて食べられないものもありました。でも、よもぎもちやだこじる、やきそばはとってもおいしかったです。

お家でもつくしやせり、ふきのとう、なの花を食べています。しぜんには食べられる草がたくさんあることにびっくりしました。とても、楽しい一日でした。



絵日記3月26日(日)

第330 回例会

春の野草を愉しむ会に参加して

中国留学生 阿 思根

久留米は、私が留学を通って8年目を迎えるところでした。1999年、私は中国の内モンから久留米大学を進学し、今も、頑張っている。7年間も故郷と離れ離れになることは、私にとって初めての経験です。最初の習慣や文化の違いによる不便さは、ふれあいことによって徐々に慣れてきて、今は、自分の第二の故里として、久留米のことを愛されている。

今年の3月26日(日)で、「久留米ウス」(何でも発見館)の「ふれあい広場」(筑後川河川敷)で、「春の野草を愉しむ会」を開催しました。私はテント張り係りとして、皆さんと力を合わせて5棟のテントを張りました。イベントの参加者達は茶道や展示会そして、子供達は菜の花が満開の河川敷で手作りの凧揚げを楽しみました。特に、山菜天ぷらを中心としたバーベキューが人気を集めました。

ふれあいイベントに参加することによって、人々の距離感が薄くなってきた。これは「野草」文化の力ではないかと感心しました。

第331 回例会

兜山キャンプ場での樹木の名札付け

河内 俊英

「みどりの日」の恒例行事となった「樹木の名札付け」は、今年も快晴に恵まれ、参加者が19名と丁度良いくらい的人数集まって実施されました。今回は兜山キャンプ場で実施しましたが、参加人数に比べて木札が少なかったことが反省としてありました。

しかし、事前調査から、参加者のための「豚汁、おにぎり」まで橋田会長は、フル回転でした。参加者は、事前に付けられた名札探してゲームのように楽しんでおられました。その成果が新しい入会希望者もおられ、定例観察会でも「一言入会募集の声かけが大切」と改めて感じました。

兜山キャンプ場が、閉鎖されるとの情報が入り、あらたな利用方法とアイデアを出すチャンスと聞きました。近年少子化の波が子ども達のための施設にも押し寄せ、年々利用者が減少してキャンプ場としての用途は終わったということのようです。少子高齢化の時代ということで、今後は「高齢者も含め多様に利用できる自然を生かしたいこの場」としての利用を考える必要があるでしょう。自然を守る会としては、このチャンスを生かして実現性のある良いアイデアを出したいものです。



参加者で記念写真



キランソウ(作ソフィアさん・イギリス留学生)

第331回例会**樹木の名札付け****善道寺町 瀬上 絵里奈**

今日は多くの植物を見ることができ、とてもよかったです。初めて見る植物も多く、先生方に教えていただき知識が増えました。

キャンプ場にはいたるところにフデリンドウが咲いておりかわいかったです。天気もよかったので楽しく活動することができました。

また、お昼のだご汁がとてもおいしかったです。ありがとうございました

第331回例会**じゅもくの名前つけ****高取小学校3年 岡部 安敏**

じゅもくの名前つけに行っておもしろかったです。ぼくは、3回目でした。木の中では、ボロボロノキがとくに好きでした。今年は、「花期」をかなきゃいけないからドキドキしました。名前つけの後、ぼくは虫を見つけるのを、楽しみにしていたけどあまりいませんでした。つかまえたのは、てんとうむし、大あり、ハサミムシです。見つけたのは、てんとう虫、大あり、ハサミムシ、バッタ、クモ、モンシロチョウです。お昼ごはんは、だごじるとおにぎりです。とてもだごじるがおいしかったです。来年は色いろなことが知りたいです。

4月29日兜山キャンプ場樹木調べ

ヤマモモ、コナラ、シイノキ、アラカシ、クリ、クヌギ、コナラ、ケヤキ、エノキ、ボロボロノキ、クスノキ、ヤブニッケイ、アオモジ、タブノキ、ムベ、ヒサカキ、サザンカ、ヤブツバキ、アカメガシワ、ユズリハ、イロハカエデ、ナワシロ、グミ、アセビ、ネジキ、シャシャンボ、リョウブ、エゴノキ、ヤツデ、コシアブラ、イヌビワ、ネズミモチ、イヌツゲ、クロキ、クロマツ、アカマツ、メタセコイア 以上37種

第332回例会**高良山四季の森・バードウィーク探鳥会****米田 豊**

県市の2行政機関と3団体の共催で実施された今回は四季の森の行事では最高の参加者数(スタッフを含めると54名)となり、野鳥達が恐れて出て来ないのでは無いかと心配した程です。行きの竹の子コースから奥の院を通り、森林つつじ公園まででは北帰行を忘れたシロハラが観られ、キビタキのさえずりも良く聞かれました。公園ではトビが観られ、珍しくジュウイチの鳴き声も聞かれました。早めの昼食後に子供達はネイチャーゲームを楽しみました。その後、駐車場下の斜面にオオカエデを5本植えました。帰りは後谷コースを利用しましたが、GW後に雨の日が多かったのでギンリョウソウやキノコも多く観られ、参加者はキクラゲを採集したり、キイチゴを試食したり、また色々な動植物を観察しながらゆっくり下山しました。

第332回例会**探鳥会に参加して****藤田 亮子**

5月14日、母の日に母と娘(小4)と3人で参加させて頂きました。前日、少し天気を心配しましたが、当日は晴天の中、四季の森で小鳥の声と姿を探し、楽しい一日を過ごす事が出来ました。雨の後という事でキノコ類も多く、娘は食べられるというキクラゲを珍しそうに採ってかじってみたり、母はハハコグサ、スイカズラ、エゴノキなどの花の香りを楽しみながら、またその他の多くの野の花や木々なども観察しながら歩きました。レンズにとらえて観る野鳥は本当に愛らしく、きれいでした。子供達も沢山参加しており、鳥の特徴、鳴き声を覚える事が出来て、有意義な一日となった事と思います。楽しい一日をありがとうございました。

《行事案内》

第335回例会:水辺の自然観察会

毎年、高良川の水辺の自然観察会を行っています。今年は、筑後川発見館くるめウス前、さくら橋下の水生生物(水生昆虫、魚類、その他)河川敷の植物や昆虫などの観察を行います。ご自由にご参加ください。

〔日 時〕: 7月23日(日)9:00~12:30

〔集合〕: 筑後川発見館くるめウス 9:00

〔参加費〕: 100円

〔持物・服装〕: 観察・採集用具、筆記用具、タオル、長靴、ゴムぞうりまたは古靴、濡れた場合の着替え、帽子、水筒など。

第336回例会:観月会

例年どおりお抹茶を頂きながら、月や星の観察をします。イベントはカサブランカ合唱団の方々と共に合唱を楽しみます。ご自由にご参加下さい。月面観察等のご指導は吉田哲磨氏です。

〔日 時〕: 9月30日(土)19:00~21:00

〔会 場〕: 筑後川発見館くるめウス

〔参加費〕: 300円(お抹茶とお菓子を含む)

第337回例会:

ネイチャーゲームと自然観察会

高良内から四季の森を通り森林公園へ行きます。昼食後、自然観察とネイチャーゲームをしながら下山します。秋の自然を、満喫しましょう。ご自由にご参加下さい。

〔日 時〕: 10月15日(日)9:00~14:30

〔集 合〕: 高良内幼稚園駐車場9:00

〔解 散〕: 高良内幼稚園駐車場14:30

〔参加費〕: 無料

《事務局だより》

法の盲点をついたマネーゲームで時代の寵児となった人たちが、法の網に引っかかる。メモは取らずメールもせず、長電話すら避けて用心していた「プロ中のプロ」がちょっと失敗したのだと、悪びれる様子はない。彼らも知っているのだろう、上には上がいることを。さて、それは?資金は税金で使い放題、横領を指摘されても「単なる計算ミスでした」で済み、監査請求は真っ黒の黒塗り、責任を問われれば「あなた達が選んだ議員達が決めたことだから、責任は市民にある」と言う・・・こんな社会で育てば、子どもたちは「騙されるほうが悪い」と思うようになるのだろうか。是非「天罰」が下ってほしいものだ。

ホームページを案内します。

「久留米の自然を守る会」ホームページ

<http://www.geocities.jp/kurumenosizen/>

(金原優子)

1. 会員消息(入会)

猪上信義(小都市)

野瀬幸子・行徳直久(久留米市)

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号94号は平成18年10月1日発行予定です。原稿の〆切は9月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、西町教育集会所で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(7月5日、8月2日、9月6日、10月4日予定)

久留米の自然

平成18年7月1日 第93号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0851

久留米市御井町1595-9 金原優子方

TEL・FAX 0942-44-1942

印刷(有)プリンティング コガ

TEL 0944-88-0027 FAX 0944-88-0029